

授業について考える Thinking on Class (号外 Extra Edition)



皆さんは毎日受けている授業をどう思っているでしょうか。

「自分のために頑張って勉強しよう。理解に努めよう」としている生徒もいれば、「つまらない・退屈だ・自分とは関係ない・・・」様々な思いを抱いている人もいるかもしれない。

私にとって今も思い出す生徒が何人かいるが、今回はその一人S君を取り上げよう。彼は入学前に一つの決意をしたそうだ。「授業中最低一回は質問しよう」と。かれはそれを実践した。私も質問詰めにあった一人だ。

最初は彼が質問すると授業が中断し、多く進まないから他の生徒達からも歓迎気味だった。しかし、徐々に彼の質問内容は複雑になり、高度になってきた。授業中ここで来るなと思うと必ず質問があった。「先生説明飛ばしたな」という目で見られることもあった。中には質問自体を理解できない者も出てきた。彼の質問により授業の流れが中断するようになり、これでは予定した授業が成り立たなくなることもあった。

そこで彼が質問しようとする「後で」と目配せするようになった。彼も「分かった」と目で返すようになった。彼とは授業中アイコンタクトでやり取りするようになった。しかし、予期したように授業が終わるとすぐに職員室に質問に来た。

ある日文法書を片手に質問に来た。「先生文法書が見えないんです。」最初彼の意図するところが分からなかった。しかし、開いた文法書は赤や黒で印が付いており彼が言う通り「見えない」状態だった。そこまで勉強していたのだ。私は嬉しくなり別の参考書をあげたのを覚えている。

彼は物凄い勢いで力を付けていったことは言うまでもない。(次回に続く)

彼の中に一体何があったのだろうか。1つは決意があった。そして日毎にその決意を実践したということがあった。決意はしてもそれを続けられないのが人間の常だ。しかし、日毎にその決意の原点に立ち返れば少なくともその日はやれる。この繰り返しが必要ではないだろうか。

根底に「求める」気持ちがあってはじめて成立する業だと思う。人間の中にある基本的欲求の一つ「知識欲」を刺激すれば、決して「つまらなかったり、退屈だったり、自分とは関係なかったり・・・する」ことはなくなるでしょう。4月入学する前の決意を思い出してほしい。進級し、新学年が始まったときの決意を思い出してほしい。あれから3か月。自分の内を再度点検する時だ。毎日全ての生徒に共通しているのは1日の大半を過ごす授業なのだから。

What do think of classes you take every day?

Some students may have the idea that they will study for themselves and try to understand the contents, and others may have the idea that the lesson is boring, and has no relation to themselves.

I have many students I remember even now. Take one student S. He said that he had one decision before entering this school; "I'll make a question at least one time during every lesson." I was one of those who were asked questions.

At first when he asked, most other students enjoyed, since the lesson stopped and made little progress. But his questions became complicated and advanced gradually. He did not fail to ask whenever I thought to be asked. Some time I was seen "I skipped the explanation." Gradually some students did not understand the question itself. And by his question, the lesson itself stopped. Sometimes scheduled teaching could not be held.

So when he tried to question, I began to wink "later". He also began to return with his eyes "OK". I got to exchange during class eye contact with him. However, he came to the staff room as soon as class was over as expected.

One day he came to me with the grammar book and said, "I can't see." At first I could not understand what he meant. But the moment I opened that book, I found what he meant. I couldn't see the contents in red or black lines. He studied so far. I remembered giving him another grammar book with pleasure. Needless to say, he gained tremendous power. (To be continued)



